第9回 台湾開教地について

の寺院にも布教を行った陳

銘芳師は、 奔走しながら、浄土真宗の 初めての本願寺派の寺院で 信念で、 収骨することに孤軍奮闘 に光明寺を設立した。戦後 教えを守り続け、弘宣する た日本人遺骨をリヤカーで 寺院に戦後無惨に放置され 台湾中部の元日本各宗仏教 いった厳しい状況のなか、 年、 一九五三(昭和二 戦後の混乱期と 台中市の中心

に接収された。 により、 ったが、 十を数える本願寺派の寺院、 台湾における本願寺派の開教は一八九 (明治二十八) 年に遡り、戦前には六 日本寺院は全て台湾の国民政府 一九四五(昭和二十)年の終戦 布教所があ

覆われた台湾社会で、中部を拠点としあった。そして戦後、「反日」雰囲気に

「反日」雰囲気に

北別院に勤務し、台湾南部の嘉義や台南 どで浄土真宗を学び、帰国後、 戦前、 京都の中央仏教学院、 本願寺台 伝道院な

> た。 光照寺 の郊外に土地を購入した。それが現在の めた。さらに、 親鸞聖人のみ教えを広めることに努 一九七六(昭和五十一)年に台中市 (第二寺院) 将来、 の建設用地となっ 道場の拡充を展望

陳銘芳師は戦後の数十年間、 日夜布教



光照寺外観





月に着工したが、

同年九月二十一日の台

が立案され、一九九九(平成十一)年六

九九二 (平成四) 年、

新道場の建設

ご本山、

日本仏教伝道協会、はせがわ美

光照寺落成慶讃法要

地下一階、

地上五階の道場がようやく竣

工した。二〇〇四(平成十六)年三月八

前門様ご親修のもと、光照寺の落

念堂、

と、二〇〇三(平成十五)年に本堂、記 術工芸社など、多くの方々のご協力のも

講堂、図書室、庫裏などを備えた

日に、

成慶讃法要が厳修された。

明寺の再建落成前のことであった。その 長男の陳一信が学校の教職を辞め、龍谷 八二(昭和五十七)年に往生された。光 に走ったすえ、長年の労が重なり、 大学大学院にて、仏法と真宗教義を学 を継ぐため、 現在光照寺住職である 一九

辺は、 集地へと様変わりした。現在、光照寺 外から高層マンションが林立する住宅密 落成から十数年を経た今、光照寺の周 人けが少なく、空き地だらけの郊

儀なくされたことなど、さまざまな困難 湾中部大地震で、一時的に工事中断を余

に直面しながらも、門信徒の固い決意と

光照寺コーラス

教室、 は、 常例布教、 本願寺派台湾開教事務所の役割を担 民芸品教室なども行っている。 コーラス、外丹功がたんこう 仏教講座のほか、日本語 (中国功夫の一

ている。 ように、現在の台湾は親日として知られ く義援金が寄せられたことからもわかる 東日本大震災の際、 しかし、戦後、日本人の引き揚 台湾から日本に多 び、

帰国後、

布教に励んだ。一九八三

明寺再建落成法要を厳修した。

(昭和五十八)年に父の遺志を継ぎ、光

情報コーナー

に加え、 らいた「原住民」、「河洛人」、「客家人」 \$ げに伴い、 えはなかなか理解され難いものである。 在家仏教のあり方、特に浄土真宗のみ教 か、台湾人を対象に布教する際、 することで、ますます多様で、複雑にな の大陸配偶者といった「新住民」が加入 ア諸国などからの外国配偶者や中国から が加わり、 中国本来の仏教形態に還元され、今で ってきている。このような社会背景のな 戦後には中国各地からの「外省人」 出家仏教が主流となっている。それ 台湾人の構成において、戦前か さらに、近年では、 日本的な仏教は払拭され、 東南アジ ・日本の

このような厳しい開教環境ではあるり、少しでもより多くの方に浄土真宗のり、少しでもより多くの方に浄土真宗のみ教えを知っていただければと、前述のようにさまざまな活動も行い、「寺にごようにさまざまな活動も行い、「寺にごようにさまざまな活動も行い、「寺にごようにさまざまな活動も行い、「おきに足を運ぶきっかけとして活用し、社会との関わりも積極的に深めてき

た。例えば、民芸品教室で作った作品を お動の一環として、老人ホームを訪問 し、仏教讃歌や民謡などを披露したり、 また、外丹功の練習を通して、お寺に入ることで、心が豊かになるだけでなく、 ることで、心が豊かになるだけでなく、 ることで、心が豊かになるだけでなく、 ることで、心が豊かになるだけでなく、

る工夫をしてきた。

台湾も日本のように、少子高齢化の社

より身近で、

気軽に入る場所に感じさせ



光照寺花祭りチャリティーバザー

会となってきた。それに伴い、過去にない各種の社会問題が続々と発生し、それい直面しなければならなく、多くの方がいろいろな悩みを抱えている。少子高齢いろいろな悩みを抱えている。少子高齢のただけした日本の経験を参考にしながら、こうした激変する時代にこそ、真宗ら、こうした激変する時代にこそ、真宗を社会、家庭に浸透させたいものであえを社会、家庭に浸透させたいものである。

※現在、台湾開教地に所属する寺院として、 高雄にも浄土真宗の教義を聞くことれ、高雄にも浄土真宗の教義を聞くことれ、高雄にも浄土真宗の教義を聞くことが、 高雄にも浄土真宗の教養を聞くことが、 1 できる () できる () できる () がある。

る

(台湾開教地事務所長 陳一信)